

麻布大学いのちの博物館における新型コロナウイルス感染症拡大予防対策マニュアル

令和2年9月23日
麻布大学いのちの博物館

1. 総論

- 入口では、咳エチケット、マスクの着用及び手指消毒を徹底する。
- 受付台帳の準備（来館者全員の氏名、緊急連絡先など感染経路が追えるよう配慮する。）をする（これらの個人情報は目的利用として入館前の情報収集に努める。）。
- 人との接触を避け、1～2mを目安として対人距離を確保する。
- 館内の消毒、清掃、換気を徹底する。
- 発熱（37.5℃以上）、息苦しさ（呼吸困難）・強いだるさ、軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある者の入館を制限し、来館を控えるようあらかじめ周知する。
- 当分の間、次のとおり対応する。
 - ・見学時間を1時間以内にするをお願いするなど、貼り紙等で見学時間を短くしていただくよう促す。
 - ・完全事前予約制（3日前までの予約）とし、1組5人までとし、1日午前・午後に2組ずつ受入れ、人数制限する。予約なしや当日受付の入館はお断りする。

午前の部 10時～12時30分（①10時～11時、②11時30分～12時30分（最終退館時間））
午後の部 13時～15時30分（①13時～14時、②14時30分～15時30分（最終退館時間））
※①と②のインターバル（30分間）で、清掃・消毒・換気を徹底する。

- ・館内では入口（入館）から出口（ハンズオンから退館）までの一方通行とする。
- ・再入館は禁止する。
- ・団体見学の受付（展示室での解説活動は行わない。）は休止する。
- ・学習教材の貸出、寄贈品の受入れ、イベントなどの博物館活動を停止する。
- ・ハンズオン（博物館内のミュージック活動・骨格標本作りも含む。）は休止する。
- ・これに伴い、博物館開館カレンダーは、当分の間、土・日・祝日・その他大学の定める休日を休館とする。なお、予約がない場合は、休館する。
- 大学が閉鎖となった場合は、事前予約の有無にかかわらず休館とする。
- 来館者の感染が確認された場合は、速やかに公表し、行政機関による調査に協力する。
- そのほか、感染拡大等により、麻布大学いのちの博物館の業務等に影響が生じる恐れがある場合は、適宜、必要な対応を講じる。

2. 来館者の安全確保のために実施すること

- 入館時
 - ・来館者に、来館前に健康状態の確認と検温を行うことを促し、発熱（37.5℃以上）、息苦しさ（呼吸困難）・強いだるさ、軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある者は入館を控えていただくよう呼びかける。

- ・過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国・地域への訪問歴がある者、感染若しくは感染の疑いのある者が身近にいられる者などは入館を控えていただくよう掲示する。
- ・受付での声かけや貼り紙等により、咳エチケット、マスクの着用及び手指消毒について注意喚起を行う。マスクを持参していない来館者に対しては、当館で用意するなど感染防止措置を講じることとする。特に検温は非接触型体温計により、スタッフに入口で対応してもらう。
- ・ミュージアムガイドなどの配布物は手渡しで配布せず、据え置き方式とする。

○見学时

- ・常に人との接触を避け、1～2mを目安としてソーシャルディスタンスを確保するよう呼びかける（床面にフロアマーカ等設置等の工夫を行い、分散しての見学を呼びかける）。
- ・標本、展示ケース、備品や壁にはお手を触れないよう注意喚起する。
- ・見学ルールを掲示し、「ハンズオンコーナー」内の触れることが前提となっている展示については貼り紙等で触れないよう注意喚起する。
- ・複数の人の手が触れる場所を定期的に消毒する。
- ・展示室での会話の自粛をお願いする。
- ・感染の恐れがある来館者には、他の者と接触しない場所で休養いただき退館を依頼する。症状が重篤な時は、適宜、健康管理センター・守衛とも連絡を取り、救急車が到着するまで、他の者と接触せずに休養できる場所（本館2階セミナーーム等）で待機させる。

3. 施設管理

○館内

- ・入口及び館内の必要な場所に手指の消毒備品を設置する。
- ・定期的な換気を実施する。
- ・他者と共有する物品や手が触れる場所と頻度を特定し、手が頻繁に触れる箇所を減らす工夫をする。

(ロビー及び展示室)

- ・閲覧用の書籍など

(展示室以外)

- ・エレベーターの操作パネル、ロビーの椅子、動物スタンプ、手すり等
- ・ハンズオンコーナーは、当分の間、一般利用は休止する。ただし、換気も含めて、ハンズオン入口のドアは常時開放する。

○入口・受付等

- ・入口・受付・ロビー等で列に並ぶ場合、1～2mを目安としてソーシャルディスタンスを確保するよう、床面にフロアマーカ等の目印を付ける。
- ・受付等、人と人が対面する場所は、アクリル板・透明ビニールカーテンなどで遮断する。

○ロビー・休憩スペース

- ・間隔を置いたスペース作り等の工夫を行う。

- ・テーブル、椅子等、共用物品を定期的に消毒する。なお、来館スタンプは撤去する。

○トイレ

- ・不特定多数が接触する場所（便座、ドアノブ、洗面台の水栓など）は、定期的に清拭消毒する。
- ・トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
- ・ペーパータオルを準備（清掃業者に依頼）する。

4. 職員の安全確保のために実施すること

○始業時（開館前）

- ・出勤前に自宅で検温し、体調管理を徹底する。
- ・発熱（37.5℃以上）や息苦しさ、強いだるさなどがある場合は、出勤を控え自宅で待機する。
- ・手洗い、うがい、マスクの着用を徹底する。
- ・**テーブル、椅子等、共用物品の消毒をする。**

○開館中

- ・事務室等、複数の人の手が触れる場所（**テーブル、椅子等、共用物品含む。**）を定期的に消毒する。
- ・受付を含めた館内職員は、マスク、フェースシールド及び手袋の着用を徹底する。

○終了時（閉館後）

- ・テーブル、椅子等、共用物品の消毒をする。

5. 広報・周知

- 博物館ホームページや正門・館内の掲示、大学の SNS、配布物などの利用により、入館制限などの当面の対応方針の実施状況や、発熱（37.5℃以上）、息苦しさ（呼吸困難）・強いだるさ、軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある者、過去 2 週間以内に感染が引き続き拡大している国・地域への訪問歴がある者、感染若しくは感染の疑いのある者が身近にいられる者などの来館を控えていただきたいこと等、来館される際の注意事項を周知していく。

- 入口や館内の掲示版等により、咳エチケット、マスクの着用及び手指消毒を励行していただくこと等を、来館者に対し周知する。

6. 博物館を利用した本学学生の実習対応

- 実習コーディネーターは、教務課発信の「実験・実習を開始するにあたっての麻布大学ガイドライン」（別添）に基づき、具体的な対策を講じるものとする。その際、事前に博物館館長に企画書を提出の上、対応を協議願うこととする。

- 当館では、入口に学生の健康管理のチェック及び出席確認のため、QR コードを掲示し新型コロナウイルスの感染が発生した場合などの追跡用に対策を講じるものとする。**ただし、一般来館者と実習以外での見学予約のない学生の見学は出来ないものとする。**